

畜産ネットワーク ちば

2007年10月 1日
第 9 号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港4番3号
千葉県畜産会館内
発行人 森 英介

「千葉県畜産フェア」の開催について

県主催により「県民の日」の行事の一つとして、かつて幕張メッセで開催されていた「畜産フェア」は、畜産関係者・関係団体が一堂に会しての唯一の行事として定着しておりました。しかし、残念ながら諸般の事情により開催が廃止されてから数年が経過しております。この間、食に関する様々なトラブルにより食の安全・安心が問われております。また、「畜産」を取り巻く環境も大きく様変わりし、畜産農家の努力・苦労は大変なものがあります。

そこで、こういった状況をふまえ、当協会が主催をして会員団体のご協力をいただきフェアを開催する運びとなりました。準備期間が短く、予算的にも厳しい環境の中での開催ですので、内容的にも充分とは言

ませんが、県民・消費者に「命の大切さ」を訴える「食育」の教材として「畜産」の果たす役割は大きく、併せて「千産千消」の推進に取り組むものです。特に、今回は、今年3月に設立された「ちば畜産レディースネットワーク」の皆様にもご参加いただき、「自分たちの仕事がどのようなものか」「生産者がどれだけの費用をかけて畜産物を生産しているか」などの「命」をキーワードに消費者との交流を予定しております。

会員・関係者の方々には、ご家族や知人・友人とお誘い合わせのうえ、是非とも船橋競馬場「ふれあい広場」に足をお運びください。多くの皆様方のご来場を関係者一同心よりお待ちしております。

(専務理事 松田 延儀)

10月13日(土) 11:00~15:00

会場：船橋競馬場 (船橋競馬場ふれあい広場)

千葉県畜産フェア出展一覧

- 房総ポークC焼肉コーナー (房総ポーク販売促進協議会)
 - 房総ポークC加工品コーナー (堀江ファーム)
 - 若潮牛焼肉コーナー (若潮牛振興協議会)
 - はちみつ販売コーナー (千葉県養蜂協会)
 - 厚焼き卵・鶏卵販売コーナー (千葉県卵業協会)
 - アイスクリーム販売コーナー (近藤牧場)
 - 搾乳体験コーナー (千葉県酪農農業協同組合)
 - 畜産なんでも相談コーナー
(NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター)
 - 畜産展示コーナー (ちば畜産レディースネットワーク)
 - ペットしつけ相談コーナー (財)千葉県動物保護管理協会)
 - ペット健康相談コーナー (社)千葉県獣医師会)
 - 骨密度測定コーナー (千葉県牛乳普及協会)
 - 畜産ウルトラクイズ (千葉県畜産課ほか)
 - おにぎり・ビール販売 (千葉県畜産物消費拡大推進協議会)
- その他、船橋競馬場ふれあい広場では多くのイベントを開催！！



も く じ

- ・「千葉県畜産フェア」の開催について.....(1)
- ・「食品の安全・安心に関するリスクコミュニケーション BSEに関する意見交換会」に参加して.....(2)
- ・マルキン事業補てん金交付される.....(2)
- ・細断型ロールペーラを用いた自給飼料収穫体系の現地研修会開催.....(3)
- ・豚サーコウイルスワクチン2型早期承認要請 県議会へ「請願書」提出.....(4)
- ・中越沖地震への義援活動.....(4)
- ・香取にて養豚農場親子探検ツアー開催.....(5)
- ・千葉県豚共進会・種豚オークションのご案内.....(5)
- ・畜産総合研究センター技術情報 「稲ホールクロップサイレージを使った肉用牛肥育」.....(6)
- ・ちば畜産レディースネットワーク通信.....(8)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信.....(8)
- ・編集後記.....(8)

消費者は「全頭検査の継続を」、流通業者は「各県統一の対応を」の意見が多数

「食品の安全・安心に関するリスクコミュニケーション、BSEに関する意見交換会」に参加して

千葉県では8月29日、千葉市中央区の同市文化センターで、一般参加者や行政関係者ら約200名の参加を得て、牛海綿状脳症（BSE）に関する意見交換会を開催しました。

県ではBSEに関する様々な対策を実施していましたが、国においては検査対象月齢の見直しや対策の検証がなされ、県としても平成20年7月末をもって20ヶ月齢以下の牛のBSE検査に係る国庫補助が打ち切られるのを受けて、対策についての見直しが必要な時期にきています。そこで多くの県民と一緒に、BSEに関して理解を深め、その対策の現状とリスク評価について考え、意見交換の場として開催されました。

はじめに、基調講演として内閣府食品安全委員会プリオン専門調査会の山本茂貴氏から、「03年7月以降に生まれた牛のリスクは限りなく低いこと、20ヶ月齢以下の牛のプリオン蓄積量は検出限界に近いほど微量であるから、検査対象を21ヶ月齢以上としてもリスクに変化はない。」との話がありました。

続いて、県BSE防疫対策本部事務局の県畜産課白

井幸夫主幹から、と畜場における対応、飼料規制、牛肉のトレーサビリティなどの本県が実施している対策の現状についての報告がありました。

パネルディスカッションでは、事前にと畜場、生産農場などを視察した消費者、流通業者、生産者の代表から「視察した施設のBSE対策は十分評価できるが、県は県民に対しこれらの情報をもっと発信するべきである。」との報告があり、パネラーからは「対策がきちんと行われていることは理解できたが、県民の多くがどこまで理解しているか疑問。いくつかの県では検査の継続を表明している。千葉県でも継続してほしい。」「対応が県により異なると混乱する。国がリーダーシップを発揮してほしい。」「全国で足並みを揃えてほしい。未検査でも安全であるとの証明書を国で発行できないか。」「未検査の牛肉が流通で叩かれたり、店頭で差別される恐れがある。」などの発言があり、各県の対応を統一してほしいとの要望、意見が多く出されました。

これらの要望等に対し、山本専門委員は「BSE対策では、飼料規制の徹底と特定危険部位（SRM）の確実な除去が行われることが最も重要。」と説明し、厚労省監視安全課の森田BSE対策専門官は「食品安全委員会の答申を受け、20年8月からの検査対象を20ヶ月齢以上とする。不要な検査は見直しが必要であり、リスクが変わらないことが理解されるよう1年かけて努力したい。」と理解を求めました。

県では、県民に対してもっと情報発信するべきとの要望を受け、10月23日成田市、同29日市川市、11月16日市原市においてリスクコミュニケーション「食の安全・安心セミナー」を開催します。

知事は、「検査を終了するかどうかは今後生産者や消費者の意見を聞きながら独自で判断する」こととしています。

（家畜衛生部 樋口 勝治）



会場には多くの参加者が関心を持って聞いていました

3年半ぶりの補てん ~ マルキン事業補てん金交付される ~

肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン事業）では、平成15年以降、アメリカでのBSE発生などが影響し、国内の牛肉価格が堅調に推移してきたため補てん金の発動がありませんでした。しかし、最近の飼料高騰が影響し、肥育農家の粗収益に対して生産費の割合が高くなってきたため、平成19年第2四半期に乳用種において補てん金が交付されることとなりました。

（価格安定課 大崎 道康）

平成19年第2四半期における算定結果

（単位：円/頭）

	肉専用種	交雑種	乳用種
四半期平均推定粗収益 (A)	988,349	583,334	358,218
四半期平均推定生産費 (B)	799,101	518,276	335,302
四半期平均推定所得 (A) - (B)	189,248	65,058	22,916
補てん金単価	-	-	4,400

補てん金単価は、基準家族労働費（当該四半期28,455円）と推定所得との差額の8割を上限とする。

自給飼料増産への新しい切り札となるか!?

～ 細断型ロールベアラを用いた自給飼料収穫体系の現地研修会開催 ～

トウモロコシ価格の高騰により、自給飼料の増産が急務となってきました。そこで、千葉県畜産協会と山武地域酪農振興連絡協議会などの主催で、「細断型ロールベアラを用いた自給飼料収穫体系の現地研修会」を8月27日、山武郡九十九里町の作田牧場のほ場で開催しました。概要は以下の通りです。

1 東日本では初披露という細断型コンビラップ（細断型ロールベアラとラップマシンを合体させた複合機）の実演

1台の裁断型コンビラップでロール梱包からラッピングまでの一貫作業を行うことにより、土の付着がなく、切断長10mm前後に細断したトウモロコシから成形された細断型ロールベアラの密度は、高さ6mのタワーサイロの最下部の密度に匹敵し、材料中の残存酸素量が少なく嫌気性が高くなり乳酸発酵を促進し、酪酸の発生を抑え高品質のサイレージが期待されます。



2 「トウモロコシ細断型ロールベアラ収穫体系の特徴と発酵品質」について 千葉県畜産総合研究センター 反町飼料研究室長

- 1) メリットとして
 - サイロがいらない。(サイロからの取り出し作業がない。)
 - 2次発酵の心配が少ない。
 - どこにでも運搬できる。流通することも可能である。
 - 長期保存(1年間程度)することも可能である。
- 2) 注意点として
 - ラップフィルムに傷をつけないよう丁寧に行う。破損した場合はただちに補修を行う。(ビニールテープを貼って補修する。)
 - ロールは水はけの良い場所に保管する。縦置きで2段積み以下とする。
 - カラス等の鳥やネズミに穴を開けられないように対策を
 - ネット・ラップフィルム等の消耗品が必要。

3 「コーン細断型ラッピングサイレージの品質・コスト等の調査結果」について 千葉農林振興センター 大塚普及指導員

- 1) メリットとして
 - 大ロットごとの密封でないために、収穫作業を分散できる。
 - 豊作時の臨時サイロの準備がいらない。
- 2) 注意点として
 - 機械導入に当たるイニシャルコストがかかる。
 - 既存体系に比べて貯蔵調整に時間がかかる。
 - 効率的に収穫を行うためには、数人のオペレーターが必要で、ワンマンでは導入が難しい。

参考までに三重県の調査研究によると、総コストから検証した結果、「細断型ラップサイロ体系によるトウモロコシサイレージの生産費は、固定サイロ体系と比較してもコスト高にはならない。」との結論も出ています。

会場を提供した作田牧場の作田知志さんは「今まではバンカーサイロを使っていたが、品質の向上と省力になれば、導入してみたい」と話していました。

豚サーコウイルスワクチン2型(PCV2)早期承認要請

県議会へ「請願書」提出、県は大臣あて要望書を提出

県議会自民党畜産振興議員連盟の協力を得る！！

現在養豚場では、豚繁殖・呼吸器障害症候群ウイルス（PRRSV）・サーコウイルス2型（PCV2）が大きく関与する複合感染症による生産性の低下が大きな問題となっています。

これらの疾病については、諸外国でも大きな被害が出ていましたが、EU・カナダ及び米国では主たる原因となるPCV2ワクチンが開発・承認され、その使用により事故率が大幅に改善（例：22%から6%以下に減少）されたとの数多くの報告があります。

被害の抑制に向けた決め手となる対策が現在のところない中で、このままだと廃業に追いやられる生産者が出てくるのではと危惧されている養豚農家の現状に鑑み、ワクチンの早期使用による生産性の改善は緊急を要するものであり、ナイスポークチバ推進協議会は、8月9日（木）千葉県議会自由民主党畜産振興議員連盟成尾会長及び県加藤農林水産部長に対し「豚のサーコウイルス2型（PCV2）ワクチンの早期承認に関する要請」を行いました。



県議会自民党畜産議員連成尾会長に要請書を提出



千葉県加藤農林水産部長に要請書を提出

県は早速8月24日に、「本県の多くの養豚生産者が強く要望しているPCV2ワクチンの生産現場での早期実用化について」千葉県知事名で、若林正俊農林水産大臣に対して要望書を提出しました。

9月7日（金）には、県議会自由民主党畜産振興議員連盟・農林水産常任自民党委員会合同会議が開催され「豚のサーコウイルス2型ワクチン要請」の内容についてナイスポークチバ推進協議会・県畜産課から状況を説明し定例県議会の中でどのように対応して行くか協議されました。

その結果、『請願書』を提出することにより県議会議長から国

に対し「意見書」を提出することとなり、ナイスポークチバ推進協議会は「請願書」を、県議会自由民主党畜産振興議員連盟において紹介議員署名後、9月18日（火）県議会へ提出しました。

この活動が功を奏し一日も早い生産現場でのワクチン実用化を期待します。

（養豚課 江ヶ崎 健一）

中越沖地震への義援活動

中越沖地震の被災地で豚しゃぶ炊き出し

房総フットサル会場の消費拡大活動収益金を義援金として寄付！

ナイス・ポーク・チバ推進協議会



関東養豚協議会（関東8県組織）主体、総勢28名による炊き出し



元気な子供たち。「おいしい！」「豚肉大好きだよ！」

平成19年7月24日（火）日本養豚生産者協議会（JPPA）の呼びかけに、ナイスポークチバ推進協議会は関東8県と地元生産者と協力して新潟県の被災地である柏崎市内2ヶ所の避難所で総量250kgに及び豚しゃぶの炊き出しを実施しました。

8月19日（日）には千葉県内のフットサル大会でナイス・ポーク・チバ推進協議会が消費拡大活動の一環として、県産豚肉の焼肉の試食及び販売を行い、売上金をすべて新潟中越沖地震被災地への義援金として寄付いたしました。

（養豚課 江ヶ崎 健一）

子豚から子供達に夏休みの思い出を

～香取にて養豚農場親子探検ツアー開催～

夏休み真っ直中の8月10日、香取郡市養豚協会が主催し香取郡市において養豚農場を親子で見学するツアーがはじめて開催されました。

参加者は船橋市内の親子連れ（子供達の年齢層は保育園児から小学校高学年）約40名が集まりました。

今回見学場所となった内山農場について一行は、家畜への病気の予防のためにまず薬品による手洗いをしたあと、エプロンとブーツカバーを装着し豚舎によく近づくことができます。豚舎では、5日齢の子豚を抱く体験をしましたが、「怖い」とおそるおそる近づく子や逃げる子、なかなか触れない子、「重い」「かわいい」と笑顔を見せる子などリアクションは様々でした。

続いて給与しているエサを見学しながら、「どうしてエサは自給しないのですか？」との問いに、「自給すると豚肉の値段が牛肉並みになります」など、直接生産者との話し合いが行われました。

昼食は香取市「道の駅くりもと」でのバーベキュー。地元産豚肉を満喫し、「普段食べたことのないおいしいお肉に感激した」など大好評でした。

参加した子供達だけではなく参加者全員にとって、豚が語りかけてくるメッセージをたくさん受け取る探検ツアーとなりました。

（経営支援課 宮上 竜也）



内山さんの説明を真剣に聞き入る参加者



バーベキューを満喫（道の駅くりもと）

平成19年度 千葉県豚共進会のご案内

肉豚の部

会期：10月2日（火） 開会・搬入
3日（水） 審査
4日（木） 11時 展示講評
会場：旭市鎌数 （株）千葉県食肉公社
出品：370頭

主催：（社）千葉県畜産協会

種豚の部

会期：10月30日（火）午前9時 開会式・審査
31日（水）午後3時 褒章授与式

会場：八街市八街一本榎 JA全農ちば八街家畜市場
出品：50頭

後援：千葉県 / 全国農業協同組合連合会千葉県本部 /
千葉県農業共済組合連合会 / （社）千葉県農業協会

第24回 千葉県種豚オークションのご案内

共進会種豚の部と同時開催 開催日時：10月31日（水）12：30～

出品：共進会出品豚を含めた L・W・D及びF・ 100頭

畜産総合研究センター技術情報

稲ホールクroppサイレージを使った肉用牛肥育

畜産総合研究センター 生産技術部 乳牛肉牛研究室
 主席研究員 石崎重信

県内における稲ホールクroppサイレージ（稲WCS）生産は平成18年度で約65ha、給与畜産農家は40戸と、ここ数年は定着してきています。畜産総合研究センターでは交雑種去勢牛を用いて肥育試験を行ったのでその結果を含めて、稲WCS給与上の留意点を紹介します。

1. 稲WCSの品質と栄養価

黄熟期に収穫した稲WCSの水分割合は概ね60%で、乾物中の成分は表1のとおりです。稲わらに比べると、デンプンが多く繊維が低いためTDNは稲わらの40%増しです。ただし、モミの消化性は飼料摂取量が多い搾乳牛では変動が大きく給与したモミの8~40%が糞中に未消化のまま排せつされますが、肉用牛では未消化排せつ割合は7~12%程度でよく消化されます。また、乾物中のNDF含量は稲わらの70%、粗飼料としての性質（牛の反芻を刺激）を表す乾物1kg採食当りの咀嚼時間（=採食時間+反すう時間；RVI）は70~80分であり、稲わらに代えて粗飼料として稲WCSを給与する場合には、乾物量として稲わらの給与量よりも若干多くするとよいでしょう。

表1 稲WCSの黄熟期における乾物中の成分含量

成分	成分含量	備考
粗蛋白質	6.9%	
デンプン	29.1%	搾乳牛ではモミの消化性が低い
中性繊維(NDF)	44.1%	稲わら(63.1%)の70%
可消化養分(TDN)	58.9%	稲わら(42.8%)の1.4倍
-カロテン	20mg/kgDM	稲わら(3mg)の7倍
-トコフェロール	260mg/kgDM	豊富、ただし収穫時に予乾すると低くなる

2. 稲WCSは トコフェロール(ビタミンE)を豊富に含む

稲WCSは、動物体内で抗酸化作用を發揮する トコフェロール(ビタミンE)に富んでいます。肥育牛にビタミンEを0.3g×7ヵ月間あるいは1.5g×2ヵ月間給与すると筋肉中ビタミンE含量が高まり、店頭ショーケース保存中に牛肉の赤色の色素である「酸素型ミオグロビン」が褐色の「酸化型ミオグロビン」に変化するのを抑制するため牛肉の鮮度保持効果が期待できます。我々の試験でも肥育後期に稲WCSを4kg給与することで、ロース筋肉中ビタミンEが増加しました(表2)。

表2 試験成績概要

各区4頭の平均値

	対照区	前後期区	全期期区
出荷時体重(kg)	837	756	853
枝肉重量(kg)	519	471	523
肉質等級	2.25	3.75	3.00
脂肪交雑 BMS	3.00	3.75	3.50
バラの厚さ(cm)	7.4	7.7	7.5
きめ・しまり	2.3	3.8	3.0
枝肉単価(円/kg)	1,190	1,474	1,248
枝肉金額(千円)	622	703	659
ロースのVE含量(mg)	2.4	3.1	3.2

牛体内でビタミンAとして利用される カロテンは稲わらに比べて多く含まれています(図1)。黒毛和種や交雑種の肥育では、ほとんどの肥育農家で肥育中期に カロテン給与量を制限して「サシ」を増やす肥育方法が実践されているため、稲WCSは「腹作りの粗飼料」として育成期から肥育前期に給与されています。飼

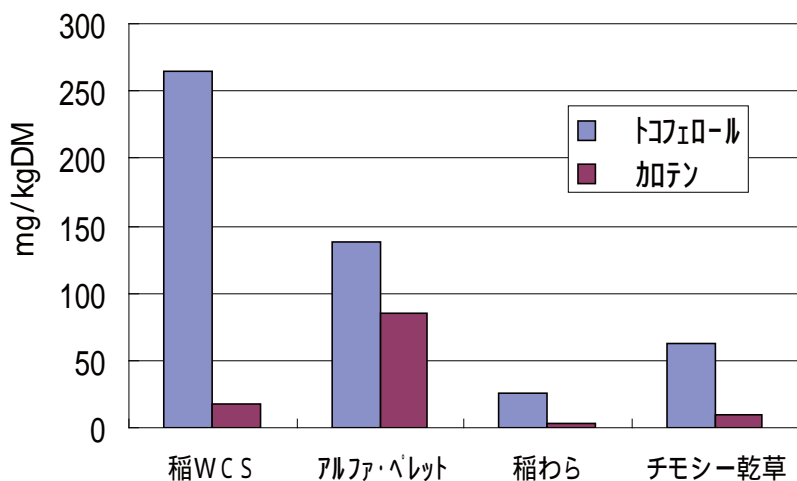


図1 粗飼料中のカロテンとVE含量

料イネ原物1kg中のビタミンA換算量は3,200IU、配合飼料中のビタミンA換算量は銘柄によって異なりますが500~1,000IU/kg程度と思われます。肥育中期におけるビタミンA換算量の給与目安は、要求量(1.9万~2.7万IU/日)の半分程度と考えられるので、カロテン含量の多い配合飼料を用いる場合には中期には稲WCSの給与を止めて稲わらを給与し、カロテン含量の少ない配合飼料を用いる場合には2kg程度なら稲WCSの給与が可能です。理想的には、稲WCSと配合飼

料中のカロテン含量を把握し、血液中のビタミンAをモニターしながら給与することです。

3. 交雑種を用いた肥育試験の結果

当センターで実施した、交雑種去勢牛12頭を用い粗飼料として稲WCS(専用種のクサホナミ)を給与した肥育試験の給与メニューを図2に示しました。各区4頭を供試した結果、表2のように肥育中期に稲WCSの給与を中断し稲わらを給与した前後期区の肉質が最も優れた結果となり、枝肉販売金額も優れていました。図3には血漿中ビタミンA濃度を示しましたが、14ヵ月齢位からビタミンAを制限し始め、16~20ヵ月齢の肥育中期には30~60IU/dl程度にコントロールするのが理想とされています。前後期区ではビタミンA濃度がやや下がりすぎたため出荷時体重が小さくなったようです。牛肉中のビタミンEは、稲WCS給与で増え、牛肉保存中の肉色変化も少なくなることが認められました。

給与飼料 供試牛：交雑種去勢牛 12頭

		対照区	前後期区	全期間区
		慣行肥育	ビタミンA制御	全期間給与
粗飼料	前期	乾草 3kg 牧草ペレット0.5	飼料イネ7kg 牧草ペレット0.5	飼料イネ7kg 牧草ペレット0.5
	中期	わら 2kg	わら 2kg	飼料イネ 5kg
	後期	わら 1.5kg	飼料イネ4kg	飼料イネ4kg
配合飼料		発育に応じて給与 5~12kg/日		

図2 交雑種を用いた肥育試験における給与メニュー

4. まとめ

黄熟期に収穫され、水分60%以下で土壌混入が少なくしっかりラップされた稲WCSは、肉用牛の嗜好性が良く、食い込ませることで適度なビタミンAを摂取できるため配合飼料の摂取量も安定します。また、稲WCSを肥育後期に給与することで筋肉中ビタミンEが増加し食肉店展示中の変色やドリップが少なくなることが期待できます。稲WCSの特性を十分理解して用いれば、肉質が良く枝肉重量のある牛を肥育することが可能です。

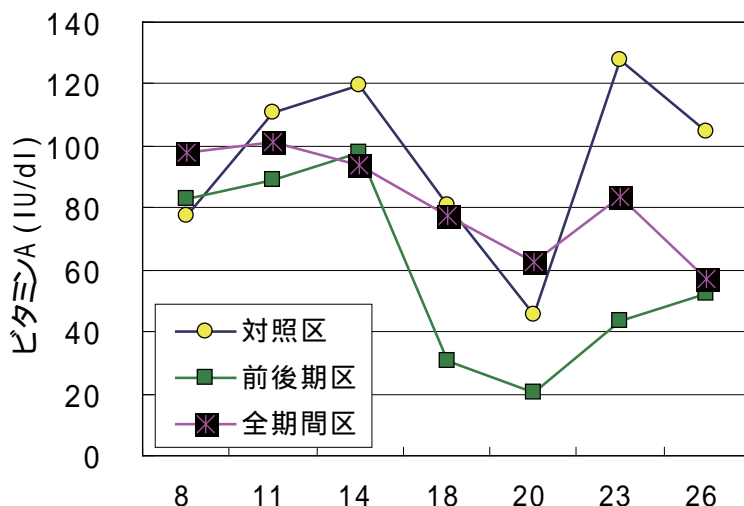


図3 血漿中ビタミンAの推移 (平均) 月齢

ちば畜産レディースネットワーク通信

8月23日(火)千葉市内のホテルにて、役員会を開催し、以下の通り決定しました。

ちば畜産レディースネットワーク研修会について

日時：11月5日(月)12:30~
 会場：プラザ菜の花(千葉市)3F菜の花
 講演内容 飼料高騰の背景とバイオ燃料の関係(予定)
 「とうして飼料の値段が高くなったか」
 千葉県下における畜産行政の動向
 研修会に引き続き、会員相互の交流会を行います。
 ネットワーク設立後、初めて会員同士で話し合う機会となります。



役員会と同日に開催されました「たまごニコニコ大作戦」(県農業協会養鶏部会主催)に参加しました。

ちば畜産レディースネットワーク消費者との交流会について

日時：10月13日(土)11:00~ 会場：船橋競馬場(畜産フェアに参加)
 内容：日々給与しているエサや使用する道具・パネル等の展示、印刷物の配布など

研修会・交流会へみなさまのご参加をよろしく申し上げます。

(経営支援課 宮上 竜也)

詳しいお問い合わせは...ちば畜産レディースネットワーク事務局(千葉県畜産協会内・宮上)まで
 TEL:043-242-8299 FAX:043-238-1255

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター 通信

去る9月14日(金)、畜産会館において当NPO法人の平成19年度役員会及び総会等が開催されました。今回の総会においては、『草地活用植樹等事業』の受託や『千葉県畜産フェア』への参加を含めた事業計画及び会計収支予算案が承認されました。



千葉県畜産協会からは、当NPO法人にとって密接な関係となる『人材活用モデル体制整備事業』について説明がありました。総会終了後、『最近の畜産情勢(千葉県畜産課)』についての研修会が開かれました。(事務局 高梨)

研修会で、最近の畜産情勢について説明する千葉県畜産課花澤生産振興室長

入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは...NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
 TEL:043-242-8299 FAX:043-238-1255

編集後記

「天高く馬肥ゆるの候」人も動物も快適な季節になりました。

健康の基本は、「快食、快眠、快便」と言われますが、家畜に当てはめると、栄養管理、運動、ベッドメイキングと例える人もいます。畜産の基本は、「家畜を健康に管理して良質の生産物を供給し、国民の健康に寄与する事」だと思います。「医食同源」実際、日本人の平均寿命が伸び世界トップクラスになっているのも、動物性タンパク質摂取による栄養バランスの向上と言われてています。

飼料価格高騰で大変な時期ですが、飼料給与を中心に今一度、経営を見直す機会と捉えて生産性の向上、疾病防止等、飼養管理の改善に努めましょう。また、畜産関係者が力を合わせて「消費拡大」に努めて参りましょう。

畜産協会も千葉県の後援、20団体の協賛、15の出展を得て「畜産フェア、船橋競馬場、10月13日(土)11時~3時」を開催する事になりました。多くの方に畜産物の良さ、千産千消をアピールしたいと考えています。

皆様のご来場をお待ち致します。

(事業部 前之園 孝光)

総務課	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.go.jp
経営支援課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	
価格安定課	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	tb-koushi@pop21.odn.ne.jp
衛生指導課	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aiores.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	